

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1171200627		
法人名	株式会社あすなるホーム		
事業所名	あすなるホーム三郷		
所在地	埼玉県三郷市新和4-545-2		
自己評価作成日	平成23年5月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F		
訪問調査日			

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>毎年、庭に野菜や草花を植えており、収穫できた野菜で漬物をつけ、入居者様に召し上がって頂いています。</p> <p>園芸、ぬか漬けもスタッフと入居者様が一緒に行い、楽しい時間を共有しています。</p> <p>その他にも、個々の趣味や好みに合わせ、余暇時間を一人一人に合わせて関わりをもち、より安心した暮らしができるようにと、努めています。</p> <p>また、行事なども、スタッフが一緒になって入居者様と同じ気持ちで、楽しく過ごせることを大切にしています。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>すべての人が安心と満足できる介護サービスを提供することを変わらない目標の一つとしており、この思いはケアの随所に表れている。災害時に関するマニュアルは充実しており、職員の動きや持ち出し用品の必要個数に至るまで詳細に記されている。医療面に関しては、利用者、家族の希望、これまで診ていただいた医師との信頼関係、カルテの記録も大切に、利用者一人ひとりが希望に応じた適切な医療を受けられるよう支援している。職員は、あらゆる面で、「自分だったら」と考え、個別のケアを実践している。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	食堂、玄関、事務室に理念を掲示しており、常に各スタッフが確認できるようになっている。 理念に基づいた目標を、毎日朝礼で唱和し、理念の意識づけを行っている。	あすなろホーム共通の理念の他に事業所独自の目標を作成し、よく目に付く場所に掲げている。介護の根底となる目標は毎日唱和し、ヒヤリハット事例の検討会議では、必ず理念に戻って考えるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に入会しており、回覧板をまわす時など、入居者様と一緒にいくなどし、交流を図っている。	隣近所の人とはお付き合いが深く、柵越しに話をしたり、差し入れを頂いたりする関係である。地域の中学生の職場体験や、ボランティアを定期的に受け入れ日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時、電話での相談や施設見学を行っており、その際、認知症の方々への支援など、具体的に説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での話し合い時に、災害時の協力依頼などを行い、連携をとれるようにしている。	自治会長、地域包括支援センター職員、家族代表、利用者、民生委員、市の職員等をメンバーとし、2か月に1回定期的に開催している。意見交換は活発であり、この場で得た意見は検討し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居希望者有無や、相談者がいた場合など、すぐに連絡をとり、情報のやり取りを行うようにしている。	管理者は、市の担当者とは、電話でのやりとりだけでなく、直接窓口を訪問して話をするようにしている。お付き合いが長く、良い協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	地域の環境面から考え。(すぐそばに、交通量の多い道路がある)玄関の施錠はやむを得ず行っているも、その他の身体拘束は行っていない。	安全を考慮し、玄関の施錠はしているが、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束にあたる行為について深く学んでおり、職員が工夫をすることで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士がお互いに、お互いの言動に注意を払い、疑問に思う事などは、注意するようにしている。また、入居者様の心身ともに、問題が生じていないか、日々観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	随時、必要な状況になったら、個別に対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に施設長より説明を行っており、その時になかった疑問なども、継続して説明を行っており、理解を得て頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、入居者様からは、日々の関わりの中から、御家族からは、面会時に要望や意見を聞く様にしており、なるべく意見にそえるようにスタッフ間で話し合い、対応している。	家族の面会時には、職員が必ず話をするようにしている。職員は、家族が話しやすくなるよう努めており、相談や要望はとても多い。要望は、検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、管理者との関わりの中で、意見を言う事のできる状態となっており、意見を伝えている。	管理者は、基本的に会議を職員の意見、提案を聞く機会としているが、日常の会話の中からも情報を収集している。職員の気持ちを考慮し、必要な時には個人的にそっと対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフがより働きやすいように、可能な範囲で、勤務状況を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同系列内の勉強会への参加、研修への参加を通じ、各自のスキルアップへつなげるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列内の勉強会、事例発表会を通じ、お互いのケアの振り返りや、意見の交換を行い、ケアの向上がなされるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に、入居されてからすぐの時は、声かけを多くし、関わりを密にとり、その方はどのような方であるのかを、みんなが知るよう努め、その方にあった関わりが図れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などに、入居されてからの状況をお伝えしたり、私達がわからない事は、少しずつお話をうかがうようにし、情報を集め、入居者様にとってよりよい環境となれるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入居をすすめるのではなく、現在のその方の状況に合わせた支援とは何であるのか、話し合いを行っている。その上で、サービスの導入を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフのペースでケアをすすめるのではなく、入居者の意思を、まず確認し、その上で適切なケアが行えるよう、必ず声掛けを行っており、いろいろな方向からのアプローチを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報は必ずご家族へ伝える様にしており、御家族と相談、協力しながらケアにあたっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当施設にあるデイサービス利用者に、友人がいたり、配偶者が利用されており、一緒に過ごす時間をもうけ、一緒に過ごして頂いている。	以前、併設のデイサービスを利用していた利用者には、なじみの友人と一緒に過ごす機会を設けている。家族等に年賀状を出すお手伝いをしたり、外出の準備支援を行なうことで、なじみの関係継続を支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションなどで、同じ作業や活動を通じて、同じ時間を楽しく過ごして頂いたり、食堂の席なども、孤立しないように配置したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも、随時、電話や訪問などで相談等、受け付けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、日頃のその方の思いを、くみとれるように努めており、声掛け、関わりをしっかりと図るようにしている。その方の思い、好きな事など大切に考え、ケアにつなげている。	日頃の会話の中から把握することが多いが、言葉でのコミュニケーションが難しい場合においては、表情や様子から判断して声かけをしている。最初の情報から得た生育歴や暮らし方等を大切に考えながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人や御家族から、これまでの生活歴などを聞いている。 入居されてからも、随時、御家族に昔の事など、話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりを通して、言動、表情、身体の動きの変化、皮膚の観察等行っており、さまざまな変化に気付けるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中から見えてくる。その方の現状に合わせたケアとは、どういったものであるのか、ケースカンファレンスで話し合い、皆の意見を出し合って検討し、ケアにあっている。	介護計画は、職員皆の意見をまとめ、家族や本人の希望、医師の指示等を反映させたものとなっている。状態が変化した時には、見直し時期に限らず随時検討し、その時その時の状態にあったものを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、その方の状況が、いろいろな面(一日の過ごし方、言動、健康状態など)がわかるように記録しており、その記録も、各スタッフがみえるようにしており、情報の共有も図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にその方にとって、一番望まれていることに近いケアとは、何であるのかを検討し、対応していくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方のボランティア(ハーモニカ演奏会)を受けており、入居者様も毎回楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関への情報の提供(手紙の記入、バイタルチェック、電話)等、看護師が中心となって行っており、場合によっては、付き添いなども行い、支援している。	医師との信頼関係、これまでのカルテ等が大切であるため、一人ひとり希望にそった対応をしている。家族との受診には必ず日頃の状態を記した手紙を書き、医師に正確な情報が伝わるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ちょっとした事なども、すぐに看護師へ連絡、相談、報告を徹底して行っており、異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際には、介護・看護サマリーを記入し、情報を提供している。 日頃より、受診時に現状報告も行い、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状をよく把握した上で、今後の状況などを、御家族とも話すようにしている。 ホームでできる事、本人、御家族のしたい事を考えながら、支援している。	家族には、入居時に医療施設ではないことを説明し、事業所でできることとできないことについて話している。少しずつ重度化した場合の対応について情報を提起し、話し合いを重ねながら利用者個々にあった方法を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の動きの流れなど、わかる所に掲示しており、動きの確認も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難場所、動きの確認を行っており、近隣への協力依頼も行っている。	年2回避難訓練を行い、非難のマニュアルも随時見直ししている。職員の動き方や持ち出し袋の内容についても細かく検討し、地域との連絡、協力体制を構築している。	全職員が昼夜を問わず、あわてずに対応できるよう訓練を重ね、事業所の災害対策がさらにレベルアップすることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けをする際には、親しい関係ではあるも、馴れ合いにはならないよう、その方を尊敬する気持ちを忘れずに、対応している。	一人ひとりの人格を尊重し、常に「自分がその立場だったら」と考えながら、利用者が気持ちよく過ごせるような言葉のかけ方を考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフのペースにならないように、必ず、確認の声掛けを行うようにしたり、表情や行動からも読み取れるように注意しながら、ケアにあたっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや散歩など、声掛けを必ず行ってみるも、入居者様のその時の意思を尊重し、対応するようにしている。いろいろな選択ができるように、その方に合ったことを声掛けしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や、行事の時は、お化粧を楽しんで頂いたり、洋服を選んで頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は、入居者様とスタッフが一緒に食事をしており、片付けや食器拭きなども、入居者様と一緒にやっている。	決まったメニューの他にヨーグルト、梅干し等個別の好みや希望にも対応している。食事が楽しみなものとなるよう、外食の際は、店から事前にメニューを借り、好きなものをゆっくり選べるような配慮をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事、水分摂取量の確認を行っており、健康管理に努めている。飲み物なども、お好きな物を飲んで頂いたりし、無理なくしっかりと摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており、清潔保持に努めている。また、義歯も毎日洗浄しており、清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせ、声掛け、誘導の方法、時間を工夫している。なるべく不快に思われる事のないよう、清潔に過ごして頂けるように、使用する下着類も考慮している。	必要な人には排泄チェックを行い、リズムをつかんで声かけをしている。パット類は、一人ひとり使いやすい種類、サイズ等を検討し、個々に合うものを選んでいく。できるだけおむつの使用を減らせるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方に合った下剤の種類、内服量を看護師が中心となり検討し、便秘にならないよう、水分もしっかり摂っていただくなど、排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人に合わせて、入浴回数なども考慮している。 なるべくその方が入りたい気持ちの時に入って頂くようにしている。	午前中に入浴する利用者が多いが、希望があれば、毎日希望の時間に入浴が可能である。完全1対1対応であるため、利用者は個々のペースでゆっくり入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休んで頂く時間も、一人一人に合わせていく。 なるべく、その方に合ったペースで、気持ちよく休んで頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬の種類等がまとめたファイルがあり、常に確認ができるようになっている。 服薬の変更等もすぐにわかるように、情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のお好きな事を把握し、それに合わせて、日頃の余暇時間にいろいろな取り組みを行って頂いている。(園芸、散歩、おやつ作りなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく、散歩へ行きたい等の訴えがあった場合は、可能な限り対応している。 外食会なども行い、車での外出も行っている。	天気の良い日には、近所の散歩をしている。利用者の状態から、現在は全員で長時間の外出は難しいため、家族の協力を得て個別に外出を楽しむこともある。車を利用して買い物や外食に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自、お小遣いを預かっており、使いたい時に使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時、希望時には電話を使用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各場所はきちんと掃除を行い、整理整頓に努めている。 食堂や庭には植物があり、季節を感じて頂けるようにしている。	廊下角のスペースは、他の利用者と少し離れた所で面会者とゆっくり話ができる場所となっている。廊下や居間の壁面には、行事の写真や季節にあった作品が飾られている。居間には、利用者の作品ファイルが置かれ、好きな時に見るできるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置しており、そちらでゆっくりとくつろいで頂けるようになっている。 雑誌なども置いてあり、楽しんで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自宅から、使い慣れた物(布団や仏壇など)や御家族の写真などをお持ち頂き、慣れ親しんだ空間となっている。	使い慣れた家具を持ち込み、それぞれ自分の作品や家族の写真等好みの物を飾って、居心地良く過ごせるよう工夫している。部屋はきちんと整理され、生活に不便のないよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかりやすいように、張り紙を掲示している。それを見て、御自分でお手洗いへ行く事ができる場合もある。		